

伝統工芸記録映画シリーズ・6

芸術祭大賞
文部省選定

伊勢型紙

16ミリ・カラー29分 / 175,000円

企画 / 文化庁

製作 / 桜映画社

教育映画祭文部大臣賞
最優秀作品賞

毎日映画コンクール
教育文化映画賞

キネマ旬報ベストテン
第一位

日本紹介映画コンクール
優秀作品賞



■そのごまかしの

きかない技術

こうした型紙で染めあげた小紋は、遠目にはかすんで縞はぼーっと白く見え、やわらかく言いようのない気品がただよう。そこに町人階級の意地があり、それを生み出したのは知られざる型彫り職人であった。そのごまかしのきかない技術を、重要無形文化財に指定された人たちによって紹介した貴重な記録である。(秀)

(日本経済新聞評より)

■解説

日本の手仕事は、長い伝統をへて江戸時代に大いに発達した。その中で、生活に色どりをそえた模様の染めは、多くは染めの型紙によったが、そのすぐれた造型美を生み出したのは知られざる職人たちであった。

染めの型紙といえば、その消費量からみても手仕事の中でも大きな仕事でありながら、型紙は紺屋(染め物屋)で使い捨てられて、その柄(模様)を着る一般の人びとの眼にはふれない。しかもその技術は素晴らしいものであった。その型紙をつくり全国に供給した産地が今も生きている。

この映画は、そうした歴史を背景にしながら、型紙彫刻の技法をくわしく記録し、手仕事というものが人間にとってどんなにかけがえのないものかを、言葉少く静かに訴える。

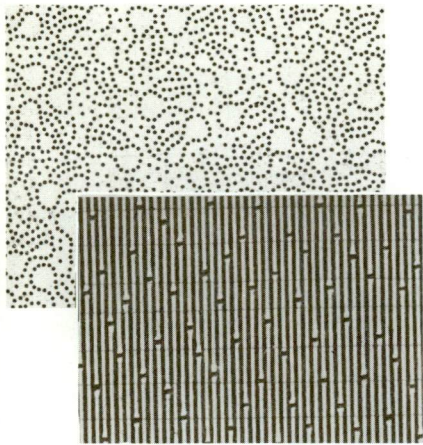
製 作

株式
会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル TEL 03(342)5768

配 給



上が錐彫、下が縞彫の小紋柄

■すいせんという言葉

岡田 譲

見知らぬ土地を旅して、思いがけぬ手仕事に出合って、思わず坐り込んで見る、そういうおどろきと、たのしさと、感動を、この映画は観る人に与えるだろう。

伊勢型紙は、富山の薬のように、江戸時代から明治・大正にいたるまで伊勢の産地から全国の紺屋に行商されたものだが、そういう独特の産業を育てた歴史風土や、手仕事の技術のおもしろさ、型紙自身のもつ造型美など多彩な内容を、観る者をひきつけながら巧みに展開する。

それは作者が、こういう隠れた素材をよくつかんでいるからで、人によっていろいろなことをこのなかから汲みとるに違いない。

(美術評論家、前東京国立近代美術館長)

■あらすじ

昔、染物屋をしていたというような旧家から、今でもときどき江戸時代の染めの型紙がまとめて発見される。

三重県鈴鹿市白子、寺家の両町がその産地で、江戸時代は伊勢でもここだけは紀州藩の領地であった。ここには伊勢湾に面して古くから開けた白子港があった。紀州藩の物産はここから江戸積みされた。町並も古く、ここには型屋と呼ばれる型紙商人が多かった。紀州藩は商人たちの行商特権を守り、その利益を冥加金として上納させた。

昔からの職人集落も残っている。外から見ると今はただの住宅だが、軒並み中では型紙を彫っている。中には型紙の地紙をつくる家も十軒余りある。

楮の和紙を柿渋で貼り合わせる地紙づくりは、女の仕事である。

型紙は、この地紙を普通七、八枚重ねて彫る。その際彫刻刀の刃の通りをよくするために、一枚一枚裏面に種油をひく。型紙彫刻にはさまざまな技法があり、彫師はそのどれかを専門にしている。

映画は、最も古い技法である、

錐彫り

突彫り

の技法から見ていく。ついで

道具彫り

縞彫り

その型紙の細い紙の縞が縄のれんのように動くのを横に糸を入れて固定する、

糸入れ

これは柿渋相手の息づまるような手技である。この映画の記録の主体は型紙を彫る各種の技法だが、職人にとっては、小さな彫刻刀が生命である。そこにも職人たちが積み重ねてきた工夫のあとが見られる。また和紙も生命といえる。美しい模様を彫る彫刻の素材は木でも石でもなく、柿渋をひいたうすい和紙である。職人たちは、「紙をだましだまし彫る」という。それらを駆使して美しい模様を生み出すのは職人の手であり、数百年に亘って膨大な数になる職人たちが、競い合って完成した型紙彫刻の技法である。「このような型紙彫りの技術が、どうしたら立派な形のまま保存でき、将来に伝えられるか、答はむづかしい。高度な技術ほど後継者も育ちにくい。しかし、絶体に機械化できないすぐれた技術こそ、亡したくないものである」と、映画は結んでいる。

■キャスト

錐 彫……宮原 敏明
 ” ……六谷 進一
 突 彫……長谷川重雄
 道具 彫……中村勇二郎
 縞 彫……児玉 博
 糸 入 れ……城之口みえ
 長坂中型……清水幸太郎
 小紋染め……小宮 康孝

■製作スタッフ

脚 本……村山 英治
 監 督……村山 英治
 撮 影……金山 富男
 助 監 督……藤原 道夫
 撮影助手……鈴木 敏之
 音 楽……山内 忠
 解 説……伊藤 惣一
 企 画……文化庁

板
 彫